



自問自答の中で

再び岩手県大槌町へ(II)

三人の子供が産まれ 三人とも自立して家を出たので、私の書齋と二階は子供部屋、今は

上に家族全員の誕生日、結婚記念日のリストを張っている。昔のように大家族で一緒に生活する人は少なくなった。物質的に豊かになればなるほど、人間関係が希薄になつていくような気がしてならない。家族間ですら絆（きずな）が細くなる。



すぶの素人でも一生懸命関わると

立派な花を咲かせてくれる



大槌町の仮設商店街

わからなくても心を込めて関わっていると草花もそれに応えてくれる。相手に関心を持つて関われば人も草花も同じような気がする。

マザー・テレサの言葉「愛の反対は憎しみではなく無関心です」。昨冬と今春、被災地を訪ねた。余りにひどい災害だったので関心を持ち、ボランティアの名のもとに少しばかり関わりを持った。

このボランティアを企画・実施した山口カトリック教会の柴田神父は、個人的に数回、被災地を訪れ、そのあとボランティアを募集して岩手県大槌町を訪れること

五回。さらに八月には福島のは被災者の十五人を山口に招待するとういう。すごい行動力だ。

神との関わりに生涯を捧



最年長の私と最年少の女の子でシフォンケーキをカット

げ、その土台の上に人との交わりに生きる神父。それに比べ、興味本位にボランティアの名のもとに参加した自分分はしよせん傍観者の域を出ない。いや、他人と比べることはない。自分なりに関わり、交わりを大切に生きていけば良いのだと自問自答する。

マザーの別の言葉「私たちのすることは大海のたった一滴の水にすぎないかもしれない。でもその一滴の水が集まって大海となるのです」。

今回の旅での被災者のボランティアとの交わりの一つ。NHKの人気番組

「鶴瓶の家族に乾杯」で大槌町の仮設商店街にあるシフォンケーキ屋が紹介されたのを見た我々のスタッフがそのケーキ屋を訪ね、仮設住宅で山口県名物の瓦そばを振る舞うことを話した。

店主の小林波子さんは「私も仮設に住んでいるけど、店があるので行けません。そこで瓦そばを届けた。こ、ベースでのコンサートにシフォンケーキを差し入れて下さった。彼女は言う「もう、悲しい、つらいと言わな

い」と。誠意をもって関わる時、交わりの輪は大きくなる。